

## ① 状況報告 ～ 各学校(図書館・司書)ができること

教職員とのコミュニケーションを大切にす。

授業での図書館利用を呼びかけたり、打ち合わせをしたり、授業中などに生徒への声かけ等をする事は、教職員とのコミュニケーションが取れていないとできないことだと思う。まずはコミュニケーションを大切にすることから始めたい。

各校現状報告 ・ 図書館は授業で利用されているけれど、司書が介入できていない。

・ 図書館の授業利用の際に目的を聞いても答えられない先生もいる⇒先生方も明確な目的はなく利用している。(場所を貸しているだけになっている。)

・ 「図書館授業利用実践記録集」を配布したところ、司書へ相談される機会が増えた⇒自分の授業が広報されたことを喜ばれた先生がいた。先生方には発信する場がないため、図書館が広報の役割を担うべき。

意見交換 ・ 司書一人では授業はできない。各教科とコミュニケーションをとることが大切。

・ 人事異動で司書が変わっても、同じサービスが出来なければならない⇒人脈のつながりは人や年数によってそれぞれ違うけれど、記録があれば引き継げる部分はある

各学校(図書館・司書)ができること ・ 入試改革に向けて先生方にも「授業のやり方を変えていかなければならない」「調べ学習をしなければならない」という意識はあるものの、授業研究が追い付いていないのが現状。図書館が実践記録を発信することで、授業担当者へのフィードバック、授業利用されていない先生へのとっかかりになる。

(各校の様子を紹介しあう感じになった)・新聞切抜きをして、ジャンルごとにファイル

- ・ 進路ジャンルごとに役立つ本を紹介したペーパーを作ってクラス掲示
- ・ 図書館オリエンテーションのときに気になる本を1冊選んでグループ内で紹介しあう。結構盛り上がった。
- ・ 30席しかなくてクラス全員は入れない。調べ学習しにくい。が、ビブリオバトルと読書会は実施。
- ・ 兼務なので事務8：図書館2くらいの割合… ・ 国語で、本を選んで紹介カードを書く授業
- ・ 修学旅行の調べ物 ・ 国語で、本のキャッチコピーを考えて帯を作った
- ・ 家庭科(保育)で読み聞かせや、幼児用レシピづくり ・ 環境で岡山の市町村をもとにした双六づくり
- ・ 美術、書道でも利用

・ 事務との兼務のため、司書業務や図書館に入れる時間が限られる。

特に3月・4月は、ほとんど図書室を開けられないこともある。

→この時期ももう少し図書の仕事ができるといいと希望します。

・ 先生から授業とのコラボを期待されることがあるが、どうしたらいいか悩む。

・ 生徒の悩み相談室となっている。家に居場所がなく、悩みを話しに来る。

・ 書庫へ移すタイミングは？ 廃棄のタイミングは？

できることとしては

・ 授業に関して先生から状況をよく聞き、希望の本をそろえる。

先生方とのつながりを築くことが必要。

・ 先生、生徒からのリクエストに対応する。

・ 資料収集 ・ 本と先生・生徒を繋げる役割 ・ アクティブ・ラーニングをもっと活性化

・ 司書と先生の話し合い ・ 環境整備(使いやすい図書館) ・ 生涯にわたっての図書館の使い方を教える

・ 情報発信(情報収集) ・ 学校図書館→大学・公共図書館 ・ キャリア形成のための進路支援

・ 先生方へのサポート(授業等の資料収集)

◇各校での図書館利用の様子など

・ 個人的に図書館を利用される先生は多いが、授業での利用は少ない。(去年は特に)発表校なので、そのネタ作りとして(百人一首など)70時間、その他は10時間未満。課題研究での利用が主である。パワポを使用。プロジェクターやスクリーン、無線LANなどの環境は整っている。生徒は5名ほど。校内の各教室でICT教育ができる環境を整えたので、余計に図書館に来なくなった。

・ 転勤2年目だが、開店休業状態である。本が棚から溢れたり、床置きされていたこともある。図書館の場所も悪いので、なかなか使ってもらえなかった。授業には箱に入った資料のみで対応したが、本が1997年発行あたりの古いものしかない。足りない本を買い揃えている。パソコンも一週間起動しなかった。データベースも壊れ、パソコ

ン自体もおかしい。昨年、廃棄を6,000~7,000冊行った。図書館にはVHSもある…。一年間大変だったが、ずいぶんと明るくなった。美術・工芸系の飾りを置いたりして、環境整備をしている。とにかく本が古い。料理本もない。5・6類の本がない。小説も読まれないものばかり。少しは授業に使ってもらえた。(年間80時間)今年はずっと使ってもらいたい。図書館にブックトラックがないので、県立図書館などから関連本を取り寄せても展示場所がない。貸出は6,900冊。資料収集と図書館に来られた先生との個別の情報交換によって、授業利用につなげている。

・5年前にSSHに認定。1年での調べ学習(好きなテーマで)を3年前から行っている。グループで調べてパワポで発表。(図書館+PC室) 懇意な先生は図書館を使うが、そうでない先生はPC室を使う傾向がある。テーマ決めのための、3・4類のパスファインダーがあった方が良いのかもしれない。例年、5・6月頃から担任任せで作業が進む。図書館としては、先生に応じたサポートをしたい。SSHで買ったノートパソコン24台を図書館に保管している。ただ、パソコンを修理する時はジャイカに報告書が必要。図書館の年間利用は180時間。

・中等部と高等部が同じ図書館を利用するので、授業での予約は早い者勝ち。重複した場合は、どちらかの授業の資料をブックトラックに乗せてクラス貸出にする。昨年度の図書館利用時間は219時間。(本校は2時間続きの授業) 同じ週に複数の調べ学習が集中することも多いので、資料を収集するのが結構大変である。市立の高校なので、県立図書館の搬送便も利用できないため、司書が週末に公共図書館を巡って資料を集めている。なかなか平日に行く時間がない。また、本校は貸出冊数が極端に少ないのが悩みの種である。一昨年の委員会目標を「年間一人4冊貸出」として、どうにかクリアできたので、昨年は「年間一人5冊貸出」としたが、目標を達成できなかった。校内で時間と場所は限られるが、スマホがOKなので、それに勝てるものが図書館にない。貸出冊数を伸ばすという目標は現実問題としてなかなか難しいので、今年度は授業支援に重点をおいた運営をしていく計画にしている。

・同じ進学校でも図書館の使われ方が対照的である。前任校では、図書館オリエンテーションを入れて、年間利用は40時間。SGHに指定。院生によって生徒が図書館の使い方をマスターしている。先生曰く、アクティブラーニングをやっていたら授業が進まない。先生方の年齢層が高い。現任校では、図書館利用は年間200時間。学校をあげてアクティブラーニングに取り組んでいる。自己目標シートの存在も大きい。図書館にiPadが20台、プロジェクターやスクリーンもある。アクティブラーニングをやりながら、進学実績も必要なので、先生方が過酷。年齢層も20~30代が多い。1年で探求学習。(情報検索)

## ②司書部会全体として目指すこと・取り組むべきこと

・誰がいつ転勤になっても、同じように図書館を運営できるように、情報・技術を共有しておくこと。(参考になる本・人・講演を紹介し合うことが大切。)

・授業情報を持ち寄り＝授業利用される場所は情報を提供し、授業利用が無い所は実践し、その時の情報を提供する。どの学校も持ち帰れる情報があると良い。

・学校図書館だけではなく、県立図書館やその他の機関にも、学校図書館の現状を知ってもらえるよう情報を発信する。

### あいさつ・片付け(環境整備)・本の素早い用意

どれもとても基本かと思うが、きちんとできているか再確認しておきたい。あいさつはもちろん、部屋の片付け等も来館する利用者にとって居心地がいいように、行きたくなる図書館であるようにしたい。また教職員に尋ねられた本は、購入や借用などの手配を素早く行い、できるだけ早く資料を渡せるように動く。本が必要だから図書館に来られるので、本の準備をいかにげんにして信頼を損なわないようにしたい。

・授業実践事例集を作る                      ・司書だけが熱心すぎても、先生が乗ってこないことが…

・各教科ごとに必要な本を選んで配架できれば利用してもらえるかも

・図書館を利用してくれる先生と情報交換、コミュニケーション

・授業で利用されたら、新着案内などでその様子を伝える

・兼務で授業で使うときに一緒にいられない。人の問題を改善したい                      ・司書教諭との連携

・司書と先生の意識の違い(認識強化、説明力)

・司書の配置について、学校教員の中での認識の改善(身動きをとりにくい、予算なども)

・学校全体の目標に図書館を組み込む。図書課全体で取り組む。職員室で図書館だよりを配布する時にアピールする。(こういう新刊が入ったので、ぜひ使ってください!など)

・資料や機器の使用状況、搬送便の活用事例、授業で図書館を活用した事例などをもとに、図書館をアピールする。(先生方をお誘いする資料として)

・図書館活用事例集のワークシートを作ってみる。レファレンスデータベース的に、いつもアップできるような仕組みを作る。(東京学芸大学のテンプレート)